

# パネル地域の特徴

資料

地域	実態・課題	取組の実施体制		参画自治体
			状況	
大館・北秋田	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>主伐後の再造林が低位</u>な中、<u>素材生産・流通の効率化</u>や苗木供給体制などの構築は道半ば</li> <li>○下地や内装等の多様な製品への加工体制を有する地域だが、<u>資源循環の確立</u>に向け、<u>更なる高付加価値化</u>や販路拡大による収益増加が必須</li> </ul>	協議会 + 有識者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大館市が事務局、ほか2市村の参画</li> <li>○ゼロから協議会を立ち上げ</li> </ul>	複数
最上・金山	<ul style="list-style-type: none"> <li>○近隣での大規模集成材工場やバイオマス発電施設の新設により <u>B・C材需要が拡大</u></li> <li>○素材生産量の拡大が求められる中で、<u>素材生産の効率化</u>や森林資源情報の整備が急務</li> <li>○A材需要が伸び悩む中で、<u>木材需要拡大と高付加価値化の遅れ</u></li> </ul>	協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局は森林組合</li> <li>○1町1森林組合で森林の所有形態は大規模</li> </ul>	単独
登米	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原木の販売先として近隣合板工場の需要は一定程度見込めるが、<u>加工施設数が少なく、原木需要の多角化</u>は期待しづらい</li> <li>○F S C 認証を進める中で、<u>F S C材の優位性を活かすことが出来ない</u></li> <li>○広葉樹の活用を模索する中で、加工・販売に向けた体制が整っていない</li> </ul>	協議会 + 県	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局は宮城県、調整役（取組のけん牽引役）は登米森林組合</li> <li>○<u>地域内には複数の森林組合（市町村合併の経緯）</u></li> </ul>	単独
日南町・中央中国山地	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原木ストック施設やL V L工場の整備によって<u>地域としての収益性強化</u>は一定程度進捗してきた</li> <li>○一方、不在村森林所有者の増加により集約化の遅滞する中、<u>人工林の更新は停滞し、高齢級化が進行</u></li> <li>○既存の林業担い手対策への応募者が減少</li> </ul>	協議会 + 有識者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局は日南町、調整役は森林組合</li> <li>○以前から近隣県や学術機関と連携</li> </ul>	単独 + 複数 連携
日田市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>木材産業の集積が進んできた（川中の体制が強い）地域</u>だが、周辺での合板用材需要の急増等により<u>地域内加工施設の競争力が相対的に低下</u></li> <li>○<u>大径材が増加する中で加工能力の対応遅れ</u>、大径材から生産される製品の<u>需要拡大も道半ば</u></li> <li>○再造林強化が求められる中で、造林の担い手が減少</li> </ul>	テーマ別 3協議会 (大径材 活用、地 域材利用、 再造林) が連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局は日田市、専門分野ごとに協議会を設置</li> <li>○古くからの林業地であり関係者多数</li> </ul>	単独